

中堅教諭研修会

No.	期 日	講師（助言者）	テーマ及び内容	会 場	人 数
1	5月23日（水）	古家 貴代美先生 （女優・手話通訳士）	「キミちゃんとあそぼう！ うたおう！」	国際交流センター	101名
2	6月20日（水）	館 紅先生 （NPO子育て子育て 宝仙ネット理事）	「望ましい教師の姿」	中原市民館	92名
3	9月12日（水）	細田 淳子先生 （東京家政大学教授）	「子どもと楽しむ わくわく音遊び」	国際交流センター	91名
4	10月17日（水）	高橋 かほる先生 （玉川大学教育学部講師）	「三歳児の社会性」	中原市民館	73名
5	11月21日（水）	幸福 花江先生 （横浜市社会福祉協議会 障害者支援センター巡回相談員）	「特別支援教育の在り方 を学び合う」	エポックなかはら	55名

◆研究参加園（44園）◆

江川幼稚園	川崎ふたば幼稚園	川崎さくら幼稚園	若宮幼稚園
観音幼稚園	双葉幼稚園	竹園幼稚園	大師幼稚園
女躰神社幼稚園	梅園幼稚園	小峰幼稚園	白山幼稚園
鹿島田幼稚園	すみのえ幼稚園	サクラノ幼稚園	平間幼稚園
太陽第一幼稚園	宮内幼稚園	大楽幼稚園	諏訪幼稚園
若竹幼稚園	川崎めぐみ幼稚園	たちばな幼稚園	津田山幼稚園
梶ヶ谷幼稚園	新作やはた幼稚園	川崎たまがわ幼稚園	宮前幼稚園
有馬白百合幼稚園	初山幼稚園	ひばり幼稚園	潮見台みどり幼稚園
宮崎台幼稚園	丸山幼稚園	菅幼稚園	東菅幼稚園
桐光学園みどり幼稚園	玉川幼稚園	桐光学園寺尾みどり幼稚園	百合ヶ丘さくら幼稚園
柿の実幼稚園	川崎青葉幼稚園	こうりんじ幼稚園	ちよがおか幼稚園

第1回 中堅教諭研修会

月 日 平成19年5月23日(水)

場 所 国際交流センター
レセプションルーム 1F

講 師 古家 貴代美先生

(俳優、手話通訳者、日中友好親善大使)

テーマ：『キミちゃんとあそぼう！うたおう！』

俯瞰図番号 E5-II

[手遊び]

○おべんとうあそび

“何々小僧の探検隊”

- ・2人組で行い、1人が人差し指を出し、もう1人の人の体を探検する。

《歌》

①何々小僧の探検隊だ 1 2 1 2

もじゃもじゃジャングル探検だ

(髪の毛の中を探検)

②何々小僧の探検隊だ 1 2 1 2

くねくね迷路をのぞいちゃおう

(耳の穴を探検)

③何々小僧の探検隊だ 1 2 1 2

大きなトンネルのぞいちゃおう

(口の中を探検)

[2人組～8人組あそび]

“ありさん宅急便”

- ・曲に合わせて踊りを踊る。

↓

- ・2人組になってお尻をぶつけ合う。

↓

- ・じゃんけんをする。

↓

勝ち…その場に立ったまま曲に合わせて手拍子
する

負け…しゃがみ、勝った人の周りを回る。

“おんぶおばけちゃん”

- ・2人組になる。
- ・1人は体育座りをする。
- ・もう1人はその後ろに立ち膝になる。
 - *後ろ…おばけ役
 - *前…子ども役

《歌》

おんぶおばけ おんぶおばけ

○(おばけ役は子どもの肩にてを乗せ

左右4回揺れる)

いるのかな いないのかな

○(おばけ役は両手を出し、子どもの

顔の前で振る)

おんぶおばけ おんぶおばけ

○(おばけ役は子どもの肩にてを乗せ

左右4回揺れる)

そろそろ出る頃

○(おばけ役は子どもの影に隠れる)

1・2・3！！

おばけ役…「3」で右、左どちちかに顔を出す
子ども……「3」で右、左どちらかに振り向く

*目が合ったらおばけ役を交代する

*合わなかったらおばけ役はそのまま交代し
ない

“ミックスジュース”

- ・グループ決めを行う。
- ・所々に手話を入れて行う。
- ・曲に合わせてスキップをして動き回る。
- ・曲の途中で合図があったら2人組を作り、じゃんけんをする。
- ・負けた人は勝った人の後ろに付き、電車を作る。
- ・電車になった状態でジャンケンを続け、8人グループを作る。

(8人グループができたならグループ名を決め

第2回 中堅教諭研修会

月 日 平成19年6月20日(水)

場 所 中原市民館ホール

講 師 館 紅先生

(NPO 子育て宝仙ネット理事)

(しらこぼと幼稚園園長)

テーマ：『望ましい教師の姿』

俯瞰図番号 B1-II

○今の子どもは「○○を持っている」「こんなに持っている」と、数や大きさを他者と競い合う風潮がある。

数や大きさではなく、「どのように知っているか」「どのようにできるか」と、質の大切さ、必要性を理解させる事が大切である。

(大・小、高・低、量、形…等)

○子どもたちから「先生どうすればいい?」と、疑問を投げ掛けられた時に「まず自分で考えよう。」と伝える事と同様に、職員の間でも疑問点をすぐに聞くのではなく、まず自分で考える事が大切である。

○文明、文化は変化しているが、子どもたちの発達は古代から変わらない。

○短気で切れやすい子どもが増えている理由
→いつも点数で押し込められている環境が子どもの弱点となる。

◎自分自身の主体性

[主体性を構成している因子]

- ・ 独立心
- ・ 自律心
- ・ 主体性
- ・ 自発性
- ・ 自己主張
- ・ 判断力
- ・ 自己統制力
- ・ 責任性
- ・ 役割
- ・ 独創性

○保育者の役割

環境…子どもの興味、視野を広げる環境を作る。

↓

経験…時間、空間をたっぷり使って、経験させる。

↓

望ましい方向

↓

援助

自尊心が大切→自分を尊ぶ事。

(一生に一回の命を愛して、愛しんで、大切にする事。)

◎資料「子どもが幸福なとき

心が安定しているとき」

《保育者と保育のあり方》

1 子どもにとって、自分には「好きな先生」がいて、同時に「その先生は自分のことを好きでいてくれる」と思えること。

→無条件に自分の事を好きでいてくれる保育者の存在が子どもの心を安定させる。

2 子どもは自分を一人の人間として尊重し、評価され、又、自分の能力を信じ、立派に成し遂げることを期待してくれる保育者の存在を心要としている。

→保育者から伝えるだけでなく、クラスの中に“小さい先生”を作り、子ども同士で教え合ったり、伝え合ったりする機会を作ること大切である。

3 物事を自分で発見する状況を作り出してやり、子どもの興味と視野を広げていく保育の指導が大切である。

→中堅教諭は、子どもの興味がどこにあるのか、視野がどこにあるのか、心が見えてくる。子どもの興味や視野を探り、保育者は自分の心と体を動かして、子どもの興味を展開したり視野を広げていく事が大切である。

4 保育者の肯定的態度が子どもの心を動かし子どもの成功を助ける。

→「やった！！」という気持ちが子どもを大きくさせる。肯定的態度とは、子どもに自信を持たせる態度、声掛けの事である。

(例)「やればできる。」

「もう1回やっごらん。」

「ここまでできたじゃない。」等。

5 中断させないで、自由にたっぷり遊べる時間と空間を確保していく見通しの力が必要となる。

→行事を順に入れて計画を立て、ゆとりを持って保育をする。行事が順に入っていないと行事に追われる保育になってしまう。

また、今日の事は今日のうちに整理し、明日の課題につなげる。

6 失敗は子どもが失敗に対して立ち向かう時、肯定的な態度で援助する。

→良い例：「間違えちゃった？助けてあげる。」

悪い例：「ほら、話を聞いていないから間違えた。」

7 子どもを動機づけるのに競争心を起こす方法を避ける努力が必要である。

→子どもを動機づける際、他の子どもと比べる方法は避けるように配慮する。

(例)「〇〇ちゃんはもうできているよ。△△ちゃんも、もうできそうね。」

8 子どもたちの遊びで心が解放できるよう欲求不満の対処の仕方よい「手本」を示す。

→(例)砂場で大きな山を作ろうと課題を与え、

「水を10杯運んでね。」と伝えると、

子どもたちは一生懸命に行う。

・物事に一生懸命に取り組む事が欲求不満の解消につながる。保育者自身も身も心もくたくたに疲れる位に活動に取り組んで、子どもたちの手本になれるようにする。

9 他の子どもの攻撃的な行動について、安心させていく保育者の受け止めと、解決能力が求められる。

→攻撃した子どもを叱るのではなく、何がさせたのか、気付かせ、攻撃された子どもには、安心させる事が大切である。

第3回 中堅教諭研修会

月 日 平成19年9月12日(水)

場 所 国際交流センター

レセプションルーム1F

講 師 細田 淳子先生(東京家政大学教授)

テーマ：『子どもと楽しむ わくわく音遊び』

俯瞰図番号 E6-II

1 身体で表現してみよう

〈ラインダンス〉

・練習のいらぬ楽しいダンス。

・アイルランドの民謡。

※2つのグループに分かれて実践した。

①全員で手を繋ぎ、円になって、音楽に合わせて大きく広がったり、小さく縮んだりする。

②隣の人と手を繋ぎ、うずを巻きながら歩く。(保育者が列の端になり、うずの先頭となって動く。)

③2列に並び、隣の人と手を繋ぐ。外側から内側へUターンし、先頭に続いて歩く。

※保育者が先頭に立って行う事で、練習をしなくても、楽しんで参加する事ができる。

2 楽器の起源について

・手拍子、足拍子が音・リズムの原点の身体表現と考える。

※幼児教育としての幼稚園の始まりは明治時代である。この時代は子どもたちの使う楽器はなかった。保育者は着物、袴でオルガンを弾いた。(大正時代まで)昭和7年、フレーベル館で三角鉄・ラッパが売られていた。

3 身体を使ってどんな音が出せるかな？

・何も持たずに身体で音を作ってみる。

子どもたちの音楽とは、無理なく自然に身体から出る音の事である。身体から出る音は何種類もあり、音への興味を育てる。

※4グループに分かれ、どんな音が出るか、一人ずつ順番に身体を使って様々な音を出していく。

研修会

(例) 腕をかく・ジャンプをする・髪の毛をパサパサさせる・頭をかく…等。

- ・音には相手にも聞こえる音と、自分だけに聞こえる音がある。
- ・音楽の基本は、耳を澄ませて音を聞く事である。
- ・自然の音（鳥の鳴き声・葉っぱが擦り合う音等）を耳を澄ませて聞く事が大切である。
- ・普段の保育の中でも、園庭に出て、身の周りの音（ボールをつく音・ドアを閉める音・走る音等）に耳を傾ける事も大切である。

○楽器の話

〈トライアングル〉

- ・なるべく小さく、子どもの両手に合ったものを使用すると良い。
（マラカス、ギロ等はようやく子どもの手に合うものになって来た。）

〈タンバリン〉

- ・穴は指を入れる為の穴ではない。逆に、指を入れない方が叩きやすい。また、音遊びをする際は叩くだけでなく、こすったり振ったりして、「色々な音が出るね。」と言って褒め、遊んでほしい。

〈カスタネット〉

- ・以前は赤色だけのものと青色だけのものの2種類があった。それは男女で区別されていたからである。現在は男女兼用で、表が赤色、裏が青色となっている。ゴムには中指、薬指、どちらを入れても構わない。また、左右どちらでも使用しやすい手を使って鳴らす。

※発表会の際、ゴムが外れてしまう事があるが、練習時から指でゴムを挟んで使っておくと、途中で外れても子どもは安心して合奏を行う事ができる。

〔遊びの実践〕

①ボディパであそぼ

- ・大きな円になり、隣の人と向かい合わせになる。（2人組で行う。）

〔ボディパであそぼの歌詞〕

せっせっせーの よいよいよ

ボディパで あそぼうよ

手拍子トントン トントントン

（手拍子4回後、相手と手を3回合わせる）

足拍子 膝拍子

（足踏み4回後、自分の膝を3回叩く）

さあ クルクル回って バイバイバイ

（半周回り、3回目のパイで後ろを向く）

※後ろを向くと、次の相手と向かい合うので、同じように繰り返す。

②ハンカチキャッチゲーム

- ・合奏指導における導入遊び。子どもが合奏に主体的に参加できる為の遊びの紹介。

（合奏練習で、音を出すタイミングが分からず、友だちの真似をして音を出している子どもがいる時にやってみると良い。）

〈ルール〉

保育者がハンカチを上に向かって投げ、そのハンカチが落ちて来て、保育者がキャッチしたら子どもたちは手を叩く。

〈バリエーション〉

- ・「手を叩く」ではなく、他の事をする。
（例）膝を叩く、楽器を鳴らす、「わお」と言う等。

『私が○○したら△△して下さい。』

4 楽器の導入…“楽器と仲良くなる”

〈あの音はどこへ〉

〈ルール〉

目を閉じて、保育者が出す音に集中し、音がどっちへ向かっているか、最終的にどこで音を鳴らしているのかを当てっこする。

※楽器はトライアングル・エナジーチャイムを使用すると良い。

5 簡単な合奏

〈リズムのオスティナートを重ねて伴奏にしよう。〉

○リズムを何種類か決めて、グループ別に決められたリズムで楽器を打ったり、鳴らしたりする。

○ “ことば” をリズムとして捉え、様々な楽器のリズムを作る。

(例) ①アイスクリーム

②はなび

③ミッキーマウス

※これらの3種類のリズムに分かれ、一定のリズムで楽器を鳴らした。強弱をつけたり2種類が楽器を打ったりして、実際に『大きな栗の木の下で』に合わせて合奏を行った。

※3歳児はリズムを叩くだけで十分である。強弱はつけなくて良い。

※合奏は、最初から最後まで全ての楽器の音を鳴らし続けるとつまらないものになる。曲の中で楽器が増えたり減ったりして、その中でそれぞれの楽器の音が聞こえて来る事が楽しいのである。

※最後に『ともだちさんか』の楽譜に合わせて全員で合奏を楽しんだ。

第4回 中堅教諭研修会

月 日 平成19年10月17日(水)

場 所 中原市民館 ホール2F

講 師 高橋 かほる 先生

(玉川大学教育学部講師)

テーマ：「三歳児の社会性」

俯瞰図番号 C3-II

「伝わりあう」 ～伝わっていますか～

・保育の中で、子どもに保育者の思いが伝わっていますか。

伝わりあう…「子どもに」、「保護者に」
「職員同士と」

○2人組になって話し合う(違う園同士の人と)

自己紹介(何年目、何歳児担任など)

保育の中で楽しいこと、困っていることを話す

「伝わる」「伝わらない」ことを話し合う

「伝わらない」ことを話し、相手は相槌を

する。

解決策をさぐり合う。

○どんな話し合いをしたか発表し合う。

①4歳児担任。クラス人数が多いので、子どもの要望に応えられない。伝えきれない。

A集団では伝わらないことがある

保育者対1人、保育者対4人 など、対応人数を変えてみるやり方もある。

②怒ってばかりいる。伝えていることを理解してもらえず、毎日叱っている。

A保育者自身、自分の気持ちをコントロールする。(セルフカンファレンス)

なぜ伝わらないのか。

どのようにすると伝わるのか。保育を振り返り、見直してみる。

・子どもたちが本気・本音で「嫌」と言えることは、子どもにとって安心できるクラスである。

・子どもは、親に対し「嫌」と言える環境にあるか。

・親は、子どもが1歳児に「嫌」と言える子育てができたか。

・親が、先手、先手に手を出し育てていくと、子どもは、自我の確立が育たない。

↓

・いい子には育つ(ルールを守る、言われた事はきちんとやる)が意志が育たない

・自分がどうしたいか、自ら行動できない

・言われたことしか動けない。

③保護者に対して、伝わらないことを多々感じる。

A相手(保護者・園児も同様)の視点に立つ。相手の波長に合わせる。

※保育者、園側でミスを起こした場合対応する文章は短く。

保護者は、自分の思いを理解してほしい

→対応は、園の方針である。

(どこまで譲歩するか)

謝りが必要な場合、電話ではなく顔を合わせる。担任1人ではなく、主任や園長を交え、複数で行く。

研修会

→保護者の興奮が治まった時は…

尊重されたと思えたこと。

誠実な対応をしてくれたと思えたこと。

※早い対応がとても大事である。

保護者に対応が納得された時には、翌日のフォローと今後の対応策を伝えること。

〈事例〉

保護者から「子どもに嫌われている」と、担任に相談に来る。

- ・母親は、子育てに不安を感じている。
- ・母親として自信が持てない。
- ・子どもは母親に対し、「ママ嫌い」「ママのお弁当は食べない」、家に帰ると母親をぶつ。

↓
保育者として、どのように面談することが大事か。

↓
どのように何を伝えることが役割か。

- ・受容 } 感情に沿うこと
- ・共感 (理解) } (親・子どもに対して)
- ・整理 — ・園での様子を知らせる。
 - ・発達を知らせる。(心の裏返しを言う時期がある)
 - ※自信を持ってもらうこと。
- ・方向 — 「やってみます」という言葉がでる。
 - どのようにすればいいか。
 - 具体的な方法を提示する。
- ・後のフォロー — 「どうでしたか」などの言葉掛けが必要である。

◎「伝える」ということは、納得を引き出すことである。

- ・本人が、「わかった」「そうなんだ」という気持ちになること。

◎納得を引き出すには…

- ・相手の側 (視点) に立つこと
- ・各年齢の発達を知ること
- ・性格を知ること
- ・個別状況を知ること

◎どうやって納得を引き出すか。

↓

- ・体験を通して引き出す。(具体的に伝える)

・抽象的 (言葉だけ) では伝わらない。

例) 子どもに「ちょっと待っててね」では伝わらない。→「3つ数えるまで待っててね」だと、子どもは納得する。

・保護者も同様である。

◎保育していく中で、気になる子どもが数人いると思うが、保育者の気持ちをなかなか理解してくれない。共感しあわない。そんな時は、保育者自身の気持ちを緩め、周りにいる子どもたちの力を借りる。保育者1人で伝えようとせず、子どもと子どもで伝わりあうように、そんな集団を作っていく。

第5回 中堅教諭研修会

月 日 平成 19年 11月 21日 (水)

場 所 エポックなかはら 大会議室 7F

講 師 幸福 花江先生

(横浜市社会福祉協議会

障害者支援センター巡回相談員)

テーマ：『特別支援教育の在り方を学び合う』

俯瞰図番号 D3-II

1 川崎市の統合保育の現状

◎85園ある中、63園が今現在、統合保育を行っている。(前年度データより)

◎入園時に障がいを承知しているケースと、入園後に分かるケースがある。

559名-294名=265名

(全体数) (承知数) ↓

幼稚園に入ってから障がいに気付いた人数。

◎相談室の現状

- ・利用園数…38園
- ・利用者数…170名

◎相談内容と対応 (アドバイス)

子どもと1:1で遊び、その子の特徴を見つける。その後、親・子どもの担当に分かれる。

○お願い

- ・子どもは柔軟な為、対応が早ければ早い程改善する事ができる。(特に年少児)
- ・移行計画書を作成し、幼稚園と学校が連携を取る事がプラスに繋がる。
- ・集団の中で気になる事を学校に伝える。

2 特別支援教育について

- ・特別支援教育とは、従来の特殊教育の対象ではなかったADHDやLD、高機能自閉症など個別の配慮が必要な子どもを通常学級の中で一人ひとりの教育的ニーズを把握して、個々に合った支援をする教育である。

※幼稚園では『統合保育』とする。

3 子どもの支援について

- ・支援のためには特性の理解が大前提となる。
- ・特性を知っていないと適切な対応ができない。その場その場の対応は逆効果である。

(1)気になる子ども、配慮が必要な子どもの状態とその特性は下記に示す通りである。

〈社会性の遅れ〉

- ・集団行動が取れない。年齢相応のルールや規則が守れない。場の空気が読めない。

〈対人関係の遅れ〉

- ・友だちと上手に関われない。マイペース。

〈ことばの遅れ〉

- ・コミュニケーションの遅れ。質的な偏り。オウム返し。一方的に話す。かみ合わない。

〈想像力の弱さ〉

- ・こだわりがある。遊びや興味が狭い。切り替えが悪い。急な変更弱い。

〈衝動性〉

- ・すぐにかつとなり手が出る。我慢ができない。大声。癩癩。

〈多動〉

- ・いつも忙しく体が動いている。じっとしていない。一定の姿勢が保てない。

〈注意散漫〉

- ・物によくぶつかる。よく転ぶ。整理整頓ができない。周りの物に気が散る。

〈運動発達の遅れ〉

- ・手先の不器用。協応動作ができない。

〈感覚異常〉

- ・体のバランスが悪い。よけられない。

〈理解力・知的発達の遅れ〉

- ・理解が遅い。同じ事を何回も繰り返すが、覚ええない。

〈言葉の遅れ〉

- ・言葉が不明瞭。吃音。構音。「さしすせそ」が「たちつてと」になってしまう。

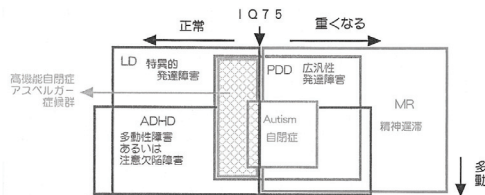
※社会性の遅れ、ことばの遅れ、想像力の弱さ → “ウイングの三ツ組” という。

(2)これらの特性を持つ診断名

診断とは、支援や指導、対応、関わり方や手がかりを得る為の情報となる。偏見差別的な見方や先入観があってはならない。

(統合保育へのとびらを参考)

《障害の関係図》



(3)集団における対応・支援について

○支援とは、適切な行動ができるようにし向けたり、不適切な行動を減らして増やさない。

弱い所を認知し、強い所を生かして指導する。

〈弱い所〉

- ・ことばの意味や行動の意味、場の意味の理解が乏しい。周囲の刺激を受けやすく、自分に必要な刺激を取り入れられない。見る、聞く、話すなどの1つ1つは機能しているが、それを繋いで行動する事ができない。

〈強い所〉

- ・視覚、聴覚からの記憶が良い。パターンの記憶や1度経験した事の記憶が良い。納得した事柄には正直に進める。生真面目。厳格。見通しが持てれば安心して

研修会

努力する。

○支援の対応について

- ①目から情報を伝える。
- ②次の行動を伝える。(変更は前もって伝える。)
- ③指示は細かく、肯定的に伝える。
- ④席や並び方は決めておく。

(4)困った行動について

- ・必ず原因がある。その度に叱ったり注意をしたりしても改善されない。記録をとる事が大切である。
- ①どういう時に何をしたのか？
- ②その直後、親・先生はどうか？
- ③考えられる原因は何か？

○対応の基本について

- ・基本はできる事を褒める。(褒める機会を意図的に作り環境を整える事で、子どもの行動に変化が見られる。)

4 親の支援

- ・親は自分を否定されたり、子育てについて否定されたりすると、未熟を指摘されたと思ってしまう。親のしつけの問題でもなく、子どものわがままだけでもないという事に気付いてもらう。

『障がいではないか』と指摘するのではなく、『とても気になるのです』と伝える。

- ①面談の日を決める。
- ②データや記録に基づいて客観的に話す。
- ③善悪を話す。
- ④成長のプロセスを定型発達との比較で話す。
- ⑤家での対応、困っている事を聞く。
- ⑥対応について、アドバイスをする。
- ⑦複数の保育者で対応する。
- ⑧言いつ放しにしない。
- ⑨年長児は就学に向けて、幼稚園でできる支援についてつたえる。

5 関係機関との連携

- ・専門機関経由の子どもの親には、「いろいろ

な人が成長発達の為に関わって応援して下さい。」とのメッセージを伝え、今後、幼稚園と専門機関で連携を取り合っていく事を了解してもらう。

- 6 発達障害のある子どもと障がいのない子どもにとっての幼稚園の果たす役割は何か？
- ・親以外の大人との信頼関係を築く。
 - ・“学ぶ”ための基礎を作る。
 - ・経験や行動を通して自信をつける、自尊心を高める。
 - ・集団の相互作用の保障の場である。